

第 3 回下北地域公共交通総合連携協議会 議事概要

開催日時	平成 22 年 11 月 16 日（火） 13:30～15:10				
開催場所	むつ市役所本庁舎 大会議室 1				
出席委員	23 名	欠席委員	7 名	オブザーバー	2 名
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 経過報告 (2) 下北地域公共交通総合連携計画策定調査の進め方について (3) 地域公共交通の現状分析について (4) 移動実態アンケート調査実施計画（案）について (5) 交通事業者・観光実態調査実施計画（案）について (6) その他 4 閉会 				
議事概要	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">1 開会</div> <p>〔事務局から開会の挨拶、配布資料の確認、委員の紹介〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">2 会長あいさつ</div> <p>〔会長〕</p> <p>どうも皆さんごくろうさまでございます、青森公立大学の山本でございます。1 年近く経って 11 月になって、今年度の第 1 回の会議です。しかも、スケジュールを見て分かると思いますが、年内の 12 月末までに基本的な方向をまとめるという非常に厳しいスケジュールでございます。</p> <p>昨年度の会議を開催しました時に言っておられました点は、予算規模を大変に縮小しました。ただ、予算規模は縮小しましたが、これは国の財政が厳しいわけでございますので、やむを得ないところはあるかと思っておりますけれども、せっきやく下北地域の厳しい財政の中で各市町村がそれぞれ期待してやるわけでございますので、レベル的には決して予算規模が縮小したからと言って恥ずかしくないレベルのものをやっていただきたいということを、今回、調査をお願いしております運輸政策研究機構に申し上げたいところです。</p> <p>そういう点からいきますと、先ほど国の財政が厳しいと申し上げましたけれども、運輸政策研究機構さんはそういう意味ではわが国を代表する運輸政策の研究機関でございますので、そういう意味で今回決まったということは非常に良いことであろうというように思っております。要は、大変限られたスケジュールの中でやるわけでございますし、また個々の調査につきましても、各市町村の皆さま方からも、ご協力をいただくことも色々出てくるかと思っておりますので、ぜひ何とか公共交通維持のために重要な会議でございますので、成果につなげるようなものにしたいというように思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>				

3 議事

[議長]

それではまず、経過報告について事務局から報告願いたい。

【事務局より説明】

[議長]

只今の報告について、何か質問等はないか。

無ければ、事務局から議題（２）、（３）について一括して説明をお願いしたい。

【事務局より説明】

[議長]

只今の説明について、何か質問等はないか。

先に私から口火を切らせていただきたい。資料 - 2 の 8 ページ、これは平成 17 年の国勢調査から取った、非常に貴重な図だが、平成 17 年の調査では地域間の流動は分かるが、交通手段は分からない。これが 5 年前だと、人の動きと交通手段とがセットになっているので、この差の表だけでは何とも言えない。特に通学の場合には、公共交通をかなり利用していると考えられるので、通勤と通学を分けて分析していただきたい。また、交通手段を考えると平成 17 年じゃなくて、平成 12 年の国勢調査を使えば交通手段も分かるはずなので、そこを分析していただきたいがどうか。

[事務局]

ご指摘のとおり、平成 12 年というと 10 年前のデータだが、参考までに傾向を見るためにこのデータを用いているが、分析を早急に行いたい。

[議長]

他に質問等ないか。

無いようなので、次の議題（４）に移りたい。事務局へお願いする。

【事務局より説明】

[議長]

4 今後の予定について

[議長]

只今の説明について、何か質問等ないか。

この移動実態アンケート調査について補足すると、当初の計画ではサンプル数が 1,000 でした。つまり 1,000 名の方からご協力いただくということです。私が非常に気になったのは、せっかくこの調査をやるのに、果たして 1,000 のサンプルで良いのかどうか。特に

下北地域は集落によって、それぞれ特性が違うので集落のこぼれ落ちがないように、全部の集落をカバーしてもらいたく、運輸政策機構にお願いし、1,700へ増やしていただいた。こうすることによってむつ市内だけではなく、他の町村についても全部の集落をカバーできる。そうすることによって問題点が把握できるのではないかとということで、サンプル数を増やしていただいた。

それからもう1つ、それに伴い、今、調査票の案が出ているが、仮にこのパーソントリップ調査をやると、あんまり深刻だという事態が出てこないのではないかと。つまり、大きな問題として、今の公共交通を中心として利用の実態について回答していただくが、回答される方がおそらく今は不自由を感じているという方は少ないのではないかと。前回の最後に私が申し上げたように、公共交通の会議、例えばこういう会議をやっても、現実に公共交通を利用して来られる方が一体何人いるか。今、マイカーを利用して何の不自由も感じてないが、将来の自分の問題として考えると、実は今の公共交通の水準というのは大変おそろしいものになるだろう。だから今、公共交通を何とか維持する仕組みを作ろうってということで、この協議会をやっている。

私もこれまで調べた限りでは、今までのバス利用者は、バス事業者に対しては大変失礼な言い方ですが、バスというのは遅れるというのが当たり前になっているので、そういう遅れるバスに対して待つのが当たり前だと思っておられるおばあちゃんを中心です。ところがこれからは、そういう人たちだけではなく、今までマイカーを使って何の不自由もなく移動していた人たちが、運転免許証を返納したために移動制約者となって、公共交通に頼らざるを得ないという状況が突然出てくるわけです。ですから、回答された方が、今は不自由を感じてないが、やっぱり将来の自分の問題として公共交通に頼らざるを得なくなった時にどんなことが起きるのかという、その部分をはっきり浮かび上がらせないと、このパーソントリップ調査だけでは、そんなに深刻な事態っていうのはほとんど伝わってこないのではないかと。できるだけ正確な実態に合わせた意見をいただくために、サンプル数を増やして全部の集落をカバーするようということをお願いした。でも、おそらくそれだけでは不十分で、回答される方々が、今は不自由を感じてないが、やっぱり将来自分も歳を取るのだということを見ると、将来の問題としてこの問題についてどう考えたら良いのかということ、そこをうまく引き出さないことには。

これは調査の本来の趣旨とは違うことは百も承知の上で申し上げている。将来の公共交通の維持のためには、そういう視点で皆が公共交通というものを考えていくような仕組みを作らないと、ただ単に「行政がお金を出します」というものではないし、バス路線を維持するためにどうしたら良いのか。鉄道の場合にはマイレール意識というのがあるが、バスについてはそういう意識というのほとんど持っていないのではないと思う。そういう部分をちゃんと引き出していかないと、今のままでは先ほど説明があったように、この地域の人口も減少します。観光客は多少期待できるかもしれないが、「じゃ、公共交通について観光客にどのぐらい頼って良いのでしょうか」、こういう話になってしまいます。このパーソントリップ調査、せつかくこれだけのものをやるので、何とかそういうものを付け加えていただきたいというのが私からのお願いです。

この予算の趣旨からいくと、確かに公共交通の総合連携を図るということは大変大事だが、連携を図るだけじゃなく、公共交通をどうやって維持するかということを見ると、

バス路線についてもそういうマイルール意識を持ってもらい、当然、船の航路についてもそういう意識を持ってもらうっていうことに繋げないと、バス交通にしても鉄道事業にしても船の事業にしても、事業としては非常に厳しくなっているので、これを今の市場メカニズムに任せたのでは、おそらく存続できないだろう。例えば5年先10年先に、「ああ、あの時やっておけば…」っていうことを言っても、もう「時すでに遅し」です。ですから将来の自分の問題として公共交通に対して関心を持ち、そのために自分は何ができるか。それはただ単に「行政がお金を出せば良いのだ」という他人事のように考えるのではなくて、「航路を維持するためには年に1回ぐらいは利用しようよ」「バス路線を維持するためには佐井からむつまで年に1回ぐらいは利用しようよ」っていう、そういうことをしていないと、どんな名案も私は名案じゃないと思う。そこがないと、せっかく今回、運輸政策研究機構に調査を委託をお願いしたが、機構としても「どうしたら良いのか」。意味のない作文を書き連ねるようなことになってはならない。やっぱり生活者のそういう意識。今はそんなに不自由を感じてないかもしれないが、「将来のことを考えるなら大変なことになるよ」と。それは例えば佐井にお住まいの方が今のバス路線で満足しておられる方がどれだけおられるか。マイカーを手放した時に一体どういうことになるのか。そういうことを皆さんがちょっと考えるようなものを、時期は非常に限られているが、ぜひこれは新たな設問を1問、運輸政策研究機構をお願いしたいと思っている。

もう一つ、非常に言葉が難しい。例えば、「アンケート調査票2票」って書いているが、専門家としてはそれで良いかもしれないが、普通は2通入っていて、これは「1人1通ずつご協力いただきたいです」っていうことはやっぱり書いていただくとか、あるいは外出の目的で「業務」というのは、配布された方がこの「業務」という表現ですぐ分かるかどうか。これはやっぱり言葉を補足しないといけないのではないかと思う。

それから例えば、問の1で「直近の」っていうのは、これはどうしても硬い言葉なので、もうちょっと大和言葉で表現するとか、そういう細かい所の工夫がなされないと、せっかくの調査票も生きたものにならない。それから一番大事な、「あなたのお名前は書かなくて結構ですよ」ということがどこにも書いてない気がするが。もし、それが私の勘違いだったらお許しいただきたい。この調査票、別表にある調査票、それから移動アンケートの実施計画等につきまして、やっぱりそのところにまだまだ細かい配慮が必要かと思う。そうしないと、せっかく協力してくれた方々、しかも各市町村が行政連絡員にご協力いただいたり、色んな形でこの調査にご協力いただくので、そのためにも、もう一工夫していただきたい。何かこれについてあるか。

[事務局]

只今ご指摘いただいた2点については、調査項目に将来のことを踏まえ、設問を追加することで対応させていただく。また、調査票、依頼文も含め、分かりやすい言葉で対応させていただきたい。

[議長]

ありがとうございました。他に何かお気づきの点があればお願いしたい。

[委員]

只今、例として脇野沢地区が出ているが、無作為と言ったら本当に独り暮らしの所には多分これは渡さないでしょうが、独り暮らしでなくても、二人で暮らしていてもこういうことを理解できない世代がたくさんいらっしゃる。国勢調査でさえも、結構、私の地域では分からないということがありましたので、回答いただく方はどういう選び方をするのか。

[事務局]

現状では、本当の無作為を想定しているが、分かりにくい部分については工夫するしかないと思っている。

[議長]

統計学の理論としてサンプリングは無作為、ランダムサンプリングというのは正しいのだが、この調査の趣旨から言って、ランダムに選ぶと言うよりは、むしろ全集落をカバーしているってことの方がはるかに大事で、その集落の中の極端に言えば誰が答えても、「そんなに大きな違いがないのではないかな」というように思う。これについて事務局の方としてはどうか。

[事務局]

行政連絡員さんをお願いするところは、その各地区の実情を良く把握されている方になっておられるので、抽出は無作為だが、その辺の配布の方法はアンケートの要望、分かりやすい部分も含めて行政連絡員と相談しながら、うまく回収できるような方法をお願いしたいと考えている。

[委員]

行政連絡員自体が理解できないものは町内の人にも説明できないので、そのことを市役所のお願する職員の方がきちんと把握して、説明してほしい。

[事務局]

行政連絡員の方にご協力いただくのは、この調査票を配布することと、それを回収すること、この2点です。調査の内容等の細かい点は、こちらの個別に配布する調査の依頼文に、「詳細についての問い合わせ」ということで、今回の調査について、むつ市の企画調整課企画グループと、後は私どもの作業ご協力の連絡先が書いているが、内容等についてのいろいろな点はお問い合わせいただきたいということにさせていただいているので、それでご理解をいただきたい。

[委員]

無作為の抽出を辞めたらどうか。この地域である程度の集落を含めて、皆さん中身が分かっている方ですから、それを「無作為で選びました」という建前ばかり役所風に出してくるのは、それこそ実態にそぐわないので。現実には世の中で無作為で「本当にやられているのか」と言ったらどこもやられてなくて、現実にはちゃんと選んで、その対象に自分ら

の目的に合ったように選んできているわけですから、これについてどうか。

[議長]

大学で統計学を教えている立場から言うと、無作為を否定するわけにはいかないが、現場でやられていることを考えると、「無作為」という表現にだけ囚われるのではなくて、その調査の趣旨から考えたら、どういう人に回答してもらいたいのか。一応、形としてはランダムになるが、その辺のところは紙ペラ1枚でどういう選び方をするかというものを、行政連絡員の人が困らないようなメモを1枚つけていただいて、渡し方について、「これは公共交通維持のために必要な調査なのだ」、そういう目的も大事ですし、どういう人に回答してもらいたいのかということも含めて簡単に例示したようなものをつくって、その辺を連絡員の方に具体的な抽出はお任せした方が、それぞれの地域の事情を分かっておられるわけですから、という意味では私もまったく同感。

[委員]

アンケートの調査票で、目的というのは町名とかを書く場所がありますよね。参考で言うと、むつ市の小川町の1丁目、2回目は、むつ市小川町の2丁目、場所はマエダ本店。これは、1回目は診察券などを見て記入してください、2回目はレシートなどを見て記入してくださいとあるが、直近のことを書くため、レシートをわざわざ持っているかと言うと、持っていないのではないかと。

例えば市役所が、中央何丁目。むつ総合病院は、どこの何丁目。マエダは何丁目という一覧表で添付資料として付けてくれると、記入される方も記入しやすいと思う。

むつ市内の方はまた良いが、大畑とか川内から来る方は、一々これお願いした時に、電話帳とか見て調べて書くのかと思う。そのようになってくるので、行き先をもし書いていただくのであれば参考資料として別添で、これからも付けていただいた方がアンケートに答える方も書き易いのではないかと思うので、それをちょっと参考にしてほしい。

[事務局]

このアンケートでの目的地というのは、まず基本はその所在地を記入していただき、要はどこに行ったかということ特定したい。その方法として、その所在地の住所を書いていただきたいのがこちらの本来の考えです。ただ、それだと分からないというものもあるので、分かりやすい建物、ここで示した、むつ総合病院とかマエダ本店とか、どうしても分からない場合はそのように書いていただきたいということです。確かにそういうのも一つの案としてはあるのですが、かなり膨大な量になってくるし、それが全てを網羅できるかと言うと、厳しいこともあるので、この例をもって実施させていただきたい。

[委員]

言っていることは分かるが、「どこの家へ行った」という家の特定地を書いているのではなく、主要な、例えば市役所の辺りは何丁目とか、あくまでも膨大な量を書いていただくのではなくて、主要な所を別添してほしいと。要するに行きそうな所、病院だとかそういう何箇所かを抽出して、それを参考までに付けていただいた方が、記入される方が、「レシ

ートを見て書いてください」って言うと、昨日行ったところなら良いですけども、直近の移動となるとレシート持っている方は良いのですけども、持っていない方もいらっしゃるのではないかと。そういう、あくまでも行きそうな所をここだと言って、記載して、別添していただく、それをお願いした。

[事務局]

前向きに検討させていただく。

[議長]

事務局に伺うが、ここまで詳細に準備が必要かどうか、その辺はいいか。バス停ならバス停、このバス停。多少不正確でも、要はバス停が特定できればいいのではないか。そこから何分歩いたかっていうことの情報的大事で、住所を詳細に書くことがこの調査の根幹に関わるのかと言うと、詳細に住所までやったことがどのような分析になるのか。例えば、GPSならGPSで移動距離が何キロあるとか、そういう分析に使うのだったら、まだ分かるが、それだけの予算規模じゃないので、そこまでの詳細は不要だと思うが。

[事務局]

最初のイメージでは、バス停をどこに編成すれば良いかというようなイメージでしたので、住所というものを詳細なことで聞いていたが、おっしゃられるとおりに、対応したい。

[委員]

この設問の解答の仕方というのは、目的地は要するに「何々町何丁目」という回答をするか、または施設の名前を書いてくれっていう設問ですよ。しかし、先程の質問で言っているのは、「むつ総合病院がどこにあるか分からない。」これ実は、「むつ総合病院」って書けば住所は知らない。そこをはっきりとコンサルさんの方で言わないから混乱する。回答の仕方は「マエダ」と書いていけばもう十分なわけだし、「むつ総合病院」と書いてれば十分。だけれども、個人宅に行った人がいるとすれば、やはり「誰、誰さんの家」って書くのはちょっと問題があるだろうし、書いたとしてもどこだか分からない。そういう場合は逆に言えば、「何々町何丁目に行った」っていう回答が返ってくれば目的を達する、そういうことですよ。だから、委員の提案したのは、「代表的な施設は住所を列記しておいてくれれば良いのではないか」というお話に関しては、「検討してみます」じゃなくて、「マエダって書けば終わりです」で良いのではないか。要は、そういう回答をしてほしいのだということが分かる説明書なり、シートになっていれば良いことじゃないか。マエダであれば、もうマエダだけでそれ以上書く必要ない。要するに、マエダがどこにあるか確認すれば良いだけですから、そういうことですよ。

[事務局]

おっしゃるとおりです。

[委員]

そもそもこのアンケートというのは、いかに公共交通を使って移動したかが第一命題じゃないのか。どのような公共交通機関を使って目的地に移動したのかが分かるようになれば良いと思うので、その辺を配慮された方がよろしいかと思う。

[事務局]

確かに今回の目的は公共交通なので、どのような公共交通の移動があったということだが、中には全く公共交通を利用しないという方もいるかと思う。また、「問2」に関係してくるが、そういう方はなぜ公共交通を利用しないのか、どういうことを望んでいるのか、そういうことを導き出すために、公共交通以外の移動手段の利用についても把握したいので、このような設問を設定させていただいている。

[委員]

このアンケートは目的を失っている気がする。全体をアバウトに公共交通の利用の現状を把握したいのであれば、この「診察券やレシートなどをちゃんと書いてください」なんていらぬ。こんなものがあるということは、一体何を目的としているのだという感じがするし、「うっかり書けないな」という、私は猜疑心が強いのかもかもしれないが、これを見たら「止めておこう」ということで、すぐにごみ箱行きになる。もっと、「こういう目的でやっているのだな」というのが分かるアンケートづくりが必要な気がするが。

[事務局]

協力していただける方の立場に立ち、見やすい、協力しやすいよう検討したい。

[委員]

これを詳細に書いたからと言って、次の分析にどう使えるかを考えると、あんまりそこまで詳細に聞いても次の分析に使えない。したがって、先程、委員のおっしゃったようなことになるだろうと思う。できるだけ回答する側の心理的なプレッシャーにならないよう、もっと回答しやすいような工夫を、ぜひもっとシンプルになるようにしていただきたい。

[委員]

表-1、表-2を下の方で選択するようになっているが、ここを簡素化して、回答欄に落とせば良いと思う。それと、「何時何分」までいらぬと思う。「何時ごろ」が良いのではないか。そして、ここで詰めれば、そこに上にある表-1や表-2には落とせるのではないか。それから表の中の目的の所もそうだが、1番に「通勤・通学」というのがあって、2番が「業務」、3番が「パート・アルバイト」とあるが、これはどっちを選ぶべきなのか。パートとアルバイトは通勤になるのではないか。通勤とパート・アルバイトはどこが違うのかと、書く方してみれば悩むところではないか。そこも簡素化して回答欄に載せた方が書き易くなると思う。

[事務局]

只今いただいた指示を反映して作り直したい。

[議長]

他に何か。

最後、資料 - 4 の説明を事務局から願います。

【事務局より説明】

[委員]

先ほどのお話と関連するが、この協議会の目的、地域公共交通を活性化するという目的と、この実施調査の計画を拝見していますと観光であったり、新幹線の開通に関連したということになると、もう既に色々な所で新幹線を含めてデータが出ているので、これをやっても二番煎じで、なおかつ本来の目的、いわゆる地域公共交通を現状から見た将来の展望と言うか、臍（ほぞ）を噛まないためにどうあるべきか、というところのための調査をしていただかないと、表現の仕方が失礼だが、お座なりな観光とか新幹線とかいう浮ついた話はどうでも良いというのが、この協議会だと私は理解しているが、いかがか。

[事務局]

もちろん、地域の方々が利用しやすいということで活性化を図るということも一つだが、その他にやはりここは観光地ということで、近年来訪者も非常に増えている。また今後も地域と合わせて、そういう来訪者の方々が来て、利用することによっても活性化が図れる一つ的手段ではないかと捉えており、直近で新幹線とかそういうものがありますので、そのことについて伺いたい。ご指摘があったとおり、確かにあと数週間で開通するというので、色々と多方面でやられており、それにつきましてはこちらで把握できるものについては把握した上で、把握しきれないものについては調査項目から少し変更が出るかと思うが、必要に応じてお聞きさせていただきたい。

[議長]

私なりに補足させていただく。当初と比べ、事業規模が非常に小さくなり、どれに力点を置かかという、やっぱり確かに資料 - 4 としてはあるが、これはある意味では付け足しみたいなもの。この調査について大々的にやるほどの予算規模ではございません。予算の内訳から言いますと。

予算規模が縮小した段階でどれを優先順位として、プライオリティが高いのはどこなのかということやると、それは委員がおっしゃったとおり、生活交通をどのようにして活性化していくかという、そこに尽きる。ただ、当初の予算規模が大きかった時に、この項目もあったので、これを無視して良いかと言うと無視するわけにはいかない。そうすると、柱としては立てるが、既に青森県なんかが行った既存の調査があるので、そういったものを活用するというので、柱の1つとして残ったというのが実態に近いというように思っている。できるだけ効率的にするということからこういう結果になったということで、ご容赦いただきたい。

他に無ければ一応、本日の議題がすべて終わりました。

それでは、ないようですので、本日予定されておりました議事を終えましたので、司会進行の方を事務局へお返しします。

4 閉会

(終了 15:10)